



与那原町史だより

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係





『謎の写真を巡って』

1. 町史所有の一枚の写真

この写真は、与那原町史編集係が長年収集してきた写真の中の1枚である。写真に一切の情報が無いため、書庫に眠っていたものだが町史編集が教育編を編集するに当たり、この町史だよりの場を借りて改めてこの写真を取り上げ、町民の皆様の写真に関する情報の提供を呼びかけたい。

写真を取り上げる理由として2つ挙げられる。1つは撮影された場所が学校であること、そして2つ目、写った人物像の背後に「奉安殿」と思われる建造物が写っていることがその理由である。奉安殿とは、天皇皇后両陛下の御真影と教育勅語を安置するための保管庫を差し、戦前、各地の尋常小学校敷地に設置された。戦後、多くの奉安殿は撤去されたが、現在でも各地に残っていて戦前の教育を語る貴重な史跡となっている。

2. 謎の奉安殿

問題は、写真の奉安殿がどこの奉安殿なのか？ということである。戦前の与那原の子どもたちは、与那原文教場が、与那原国民学校として独立する（S16年）までは2つの学校に通っていた。小学校1年～4年までは与那原分教場に通い、小学校5年生に上ると大里村嶺井の本校、第一大里尋常高等小学校へ通うという形を取っていた。

これまで町史編集では、沖縄戦体験者の聴き取り調査の中で、御真影のあった場所として、与那原分教場には無かった。大里の本校に奉安殿があった。いや、奉安殿は無いが

教室の壁上側に置かれていた等その証言内容は様々であった。今回、写真の撮影場所を特定するにあたり、町内の昭和8年～13年の間に第一大里尋常高等小学校を出られた方々に話しを伺った。

3. 聴き取り調査の結果

聴き取り調査の結果をまとめたのが下記の表となる。奉安殿が“ある”もしくは“あったかも知れない”と答えたとお2人が96歳の同級生で、それより年下になると一様に“無かった”の答えになり、御真影の場所を質問すると、“校長先生が運んだ箱の中”と“教室の一角に設置されていた”の2つの答えになる。年齢順にこれらを一列に並べると、奉安殿→移動できる箱の中→教室の一角と御真影の場所が移動しているとの1つの見方が成り立つ。これは何を意味するのか？

生年月日 (2018年1月15日現在)	年齢	奉安殿は ありましたか？	御真影を 納めていた場所	四大師の 様子	校舎の 配置
1921(T10)年生	96歳	はっきりあった。	奉安殿	○	○
1921(T10)年生	96歳	在ったような 気がする。	分からない	×	△
1922(T11)年生	95歳	無かった。	校長先生が持って きた箱の中	○	△
1922(T11)年生	95歳	分からない	分からない	×	×
1925(T14)年生	92歳	無かった。	覚えていない	×	×
1925(T14)年生	92歳	無かった。	高等科の教室の上側	○	◎
1926(T15)年生	92歳	無かった。	東側の教室の壁	○	○

4. 「第一大里尋常小学校不祥事件」

その手がかりとして1つの記事がある。「第一大里校不祥事件対策」『沖縄日日新聞』(昭和8年1月14日土曜日3面)。新聞記事には、事件についての記述が無く、事件が県議会で論及され、校長が県学務部長に進退伺と始末書を提出、県当局は県下各中小学校長宛てに御真影並びに教育勅語謄本詔書等の奉安所の設備、宿泊員、奉護心得、非常時の処置等につき、一層の注意を払うよう警告的通牒を発したと記載されている。この日付は96歳の方が小学5年生の時期に重なる。明らかに奉安殿に絡んだ事件である。

さらに事件の詳細が記録されているのが『沖縄県議会史』(沖縄県議会事務局編1984)にあり、1933(昭和8)年1月6日(金)、“第一大里小学校における奉安庫損壊”の名目で記録されている(p284~285)。事件は、1932(昭和7)年12月30日午後6時半、奉安庫に不敬漢が入り、錠をこじ開けて針金を破って侵入し、教育勅語詔書を遠くへ持ち出して隠してあったとの警察からの報告があり、また、その犯人が部外者では無く、校内取締者の過誤に出たものであるとの捜査内容であった。県議会では県学務部の人事政策の失策が今回の不祥事の根本原因だったのではないかと県当局の責任を追究している。以上が『県議会史』の内容である。補足として、当時、経済的不況を背景に教員の給料未払いや失業教員の増加があり、多くの教員が不満を募らせていた。

5. 真実の行方

この事件が、その後、第一大里尋常高等小学校に奉安殿を失くすきっかけであった可能性は非常に高い。残念ながら事件がどのような顛末を辿ったのか、それらを確認する新聞資料が、沖縄戦の事情により一部の年間だけ空白となり確認する事が出来ない。今後、どこかでその時代の新聞が発見されることを祈るばかりである。

最後に、『沖縄市郷土博物館紀要あやみやNo.25』(2017)に奉安殿の建造年についての調査報告がある(p33~37)。その中で昭和6年と昭和15年の学校配置図が掲載されており、昭和6年の最初の奉安殿は校長住宅の傍に配置されていた。聴き取りをした96歳の方も奉安殿の位置を校長住宅の傍と指し示していたことを鑑みると、設置初期には奉安殿の設置条件に責任者である校長の住宅の傍に設置するとの規定があったのではないかとと思われる。

現在、奉安殿の存在を語って頂いたのは96歳の方お1人だけである。今回の写真についても、第一大里校の奉安殿は神社の様な社型ではなく、写真と同じ四角いコンクリートの形であったと語っていた。

この証言を受けて直ちにこの写真が第一大里尋常高等小学校の奉安殿であるとは断言できないが、これからも与那原町民の皆様より情報の提供を頂いて、1つ1つその検証を重ねて町民の皆様へ報告できればと願っている。

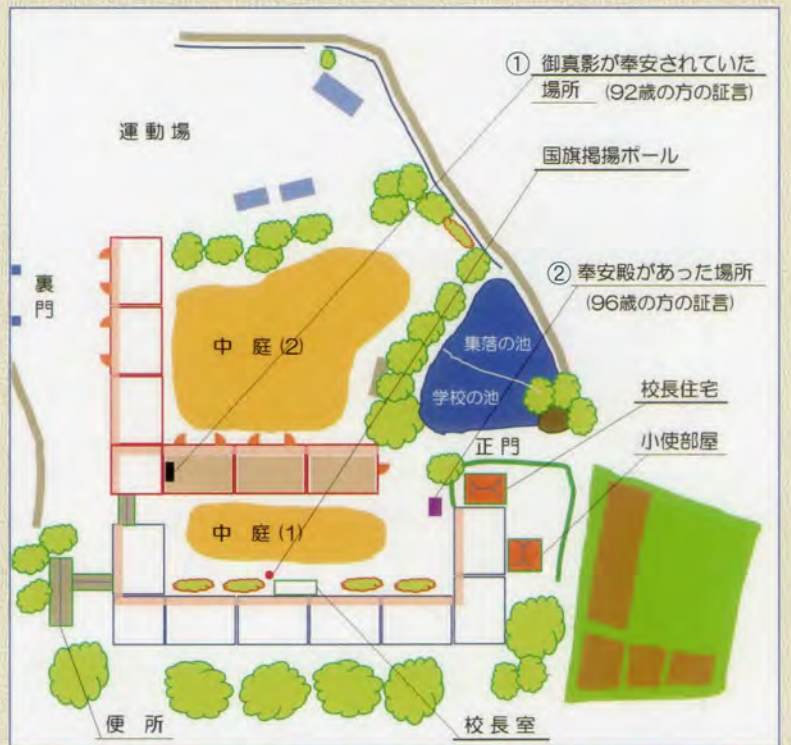
町史編纂にて編集中の『与那原町史図説編 与那原教育のあゆみ』に奉安殿や四大節についての解説もあるので是非ともこちらも合わせて読んで頂きたい。



「県学務課が警告／学校宿直を嚴重に／将来を戒め瀬長校長進退伺保留／第一大里校不祥事件対策」『沖縄日日新聞』(1933(昭和8)年1月14日土曜日3面記事)沖縄県立図書館所蔵

※この日付の新聞は『沖縄県史研究叢書17植物標本より得られた近代沖縄の新聞』(沖縄県教育委員会2007)に所収されている。

○聴き取りを元に作成した第一大里尋常高等小学校配置図



① 1925(大正14)年生92歳の方の証言によれば、中庭に挟まれた3つの教室は高等科の教室で、四大節の日には全校生徒がこの場所に集まったという。

② 上記の配置図に、1921(大正10)年生96歳の方の証言による奉安殿の位置を示した。毎朝、正門より入って奉安殿の前であいさつした後、校長住宅後ろの教室に入って行ったという。5年生の時の教室である。

与那原に初めてできた学校

—与那原国民学校—



与那原国民学校（推定復元模型）

1913(大正2)年設置の第一大里尋常高等小学校の分教場が、1941(昭和16)年4月に独立した学校です。現在の青少年広場と与那原コミュニティセンターの場所に、校舎と運動場がありました。

校舎の利用状況



比べてみよう学校生活

着物から洋服へ



1942 (昭和17) 年の子どもたち

沖縄県が誕生してさまざまな習慣が変わりましたが、服装もその変化のひとつです。教員たちは明治時代に洋服を着用するようになりましたが、与那原の子どもたちには、昭和になってから普及しました。



1924 (大正13) 年の子どもたち

手旗信号とモールス信号

学校では、軍隊で行われていた手旗信号とモールス信号を覚えさせられました。手旗信号は旗の振り方で、モールス信号は音の長短で、遠くにメッセージを送る方法です。子どもたちは、細い竹を笛のように鳴らして、学校でも家でも、モールス信号の練習をしていました。



手旗訓練のようす (海軍飛行予科練生)

アジア歴史資料センター提供 / 国立公文書館 所蔵

文字	手旗信号	モールス信号	符号
イ	ト	・—	al
ロ	路上歩行	— — —	alal
ハ	ハ—モ—カ	— — —	an
ニ	入費増加	— — —	an
ホ	報 告	— — —	an
ヘ	へ	・	a
下	積算簿	— — —	an
チ	地価騰貴	— — —	an
リ	流行地	— — —	an
又	建 物	— — —	an
ル	ル—ル—ル—	— — —	an
ヲ	和尚焼香	— — —	an
ワ	ワ—ト—	— — —	an
カ	下 茶 席	— — —	an

モールス信号の一覧表 (部分)

アジア歴史資料センター提供
国立公文書館 所蔵

アフリカマイマイを育てなさい



アフリカマイマイは、アフリカマイマイ科の巻貝です。東アフリカ原産で広く熱帯太平洋地域に分布しています。与那原では、学校で生徒に配って、戦時中の食料とするように勧めていました。

木の箱に、モミを敷いて

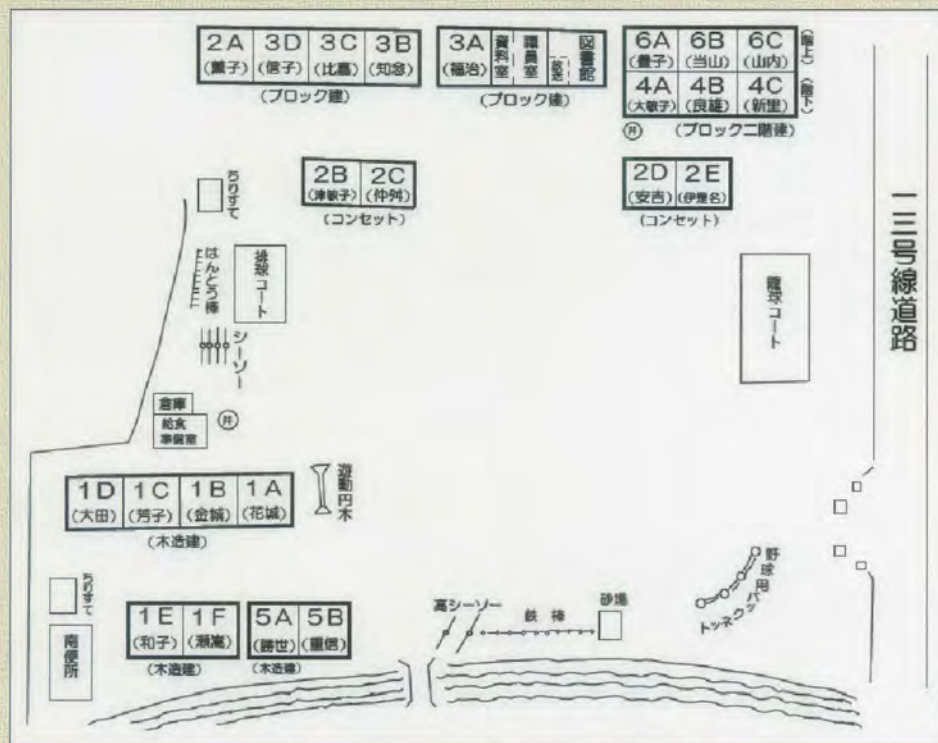
飼育しました。多くの卵を産むので、増えるのが早かったそうです。エサは、お芋や木の葉でした。

「食用チンナン」と呼ばれ、大きく育ったら食べていましたが、肉は大変固くて、おいしくなかったようです。

注意：人間に有害な寄生虫を持っている可能性があります。さわらないでください。

小学校の思い出と学校給食

当時の先生に聞いた 1956(昭和31)年度の与那原小学校って?



1956(昭和31)年度
与那原小学校校舎配置図
与那原小学校 所蔵

トイレ事情

トイレは現在のように各校舎に設置されておらず、敷地内に1カ所あるだけでした。さらに、ポットン便所と呼ばれる汲み取り式のトイレのため臭いはきついものでした。また落ちてしまう子どももいました。そのためトイレに行くのを嫌がる子供もいたそうです。そのうえ、手を洗う水道もなく、校内にある井戸から汲んだ水を、バケツに溜めて使用していたとのことです。

授業のチャイム

授業のチャイムは、職員室の手前に吊るされていたアメリカ製の酸素ポンペを金づちで打ち鳴らしていました。

開始と終わりの合図はそれぞれ違って、授業が始まる時は、1回大きくガンと鳴らした後ガンガンと打ち鳴らしていたそうです。授業の終わりには、ゆっくりカーンカーンと2回鳴らしていました。

ブロック建校舎内の出来事

教室への出入りは上履きではなく靴のままでした。そのためゴミがよく舞い、掃除には苦労したとのこと。また、校舎の壁は取り外すことができ、行事の際には講堂として使用していました。

子ども達にとって、コンクリートの床はメンコがやりやすく、校内にメンコを持ちこんで遊んでいました。



1957(昭和32)年3月職員集合写真。左に写るのが、チャイムとして使用されていたアメリカ製の酸素ポンペ。
安谷屋 和弘氏 提供

どれを食べていた？ 給食献立

ミルク給食

1955(昭和30)年の給食は、脱脂粉乳と呼ばれるミルクのみでした。栄養補給が目的であり、粉ミルクを水やお湯で溶かしたものでした。味は美味しいと言いがたいものだったそうです。

粉が混ざりきらず、ダマを吐き出して飲む子どもがいたとのこと。他にも、飲む量を少しでも減らそうと、ミルクを肌にくすり付け「飲んだ」と言い張る子もいたそうです。



パン・ミルク給食のレプリカ。これにチーズが付くこともありました。

沖縄県学校給食会所蔵

パンの追加

1960(昭和35)年1月、アメリカから小麦粉の援助を受け、パン・ミルク給食が始まりました。与那原町では1月遅れの2月からパン・ミルク給食が始まりました。しかし、このパンは水分が少なくポソポソで、現在のパンと比べると美味しなかったそうです。

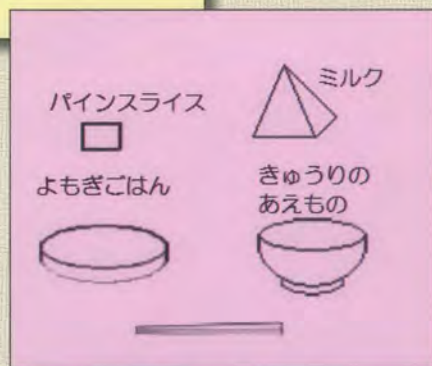
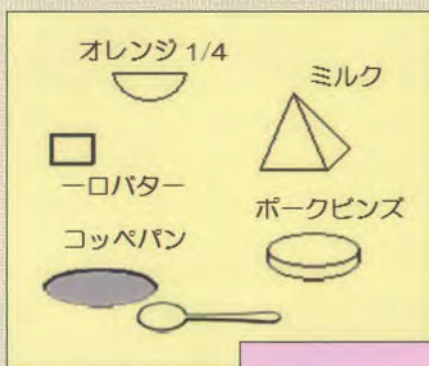
おかずの追加

1962(昭和37)年7月、沖縄県で初めて豊見城村(現在の豊見城市)の上田小学校がパン・ミルク・おかずの給食形式(完全給食)を開始しました。この形式は徐々に沖縄全域の給食に広まり、与那原町では1965(昭和40)年に実施されています。

給食の役割

給食は子ども達の栄養補給を目的に始まりました。しかし現在の給食は、栄養補給の他に、食に対する正しい知識や食習慣などを学習(食育)する場になっています。

昭和55年度の献立一例



『学校給食献立集 昭和55年度』 沖縄県教育庁保健体育課編1981年3月 沖縄県公文書館所蔵より作成

平成29年度の1週間の献立

<p>22(月)</p> <p>もものタルト</p> <p>ほしのハンバーグのデミグラスソースかけ</p> <p>ひよこまめのシチュー</p> <p>コッペパン</p>	<p>23(火)</p> <p>アーモンド</p> <p>ドライカレー</p> <p>はくさいとコーンのスープ</p>	<p>24(水)</p> <p>ムーチー</p> <p>デークニウパー</p> <p>ごはん</p> <p>シカムドッチ</p>	<p>25(木)</p> <p>カップもずく</p> <p>よなばるさん</p> <p>ひじきいり</p> <p>クファージュシー</p> <p>ワムクジ</p> <p>てんぷら</p>	<p>26(金)</p> <p>アセロラ</p> <p>ミルク</p> <p>けんさんマグロのアーサーソースかけ</p> <p>ごはん</p> <p>ふーちゃんぷる</p>
--	---	--	---	--

与那原町教育委員会所蔵

与那原の海と学校

ここでは、与那原の海と学校を紹介します。今は「海と学校」と聞いても、皆さんにはピンと来ないかもしれません。与那原の学校は、戦前から海のそばに建てられています。そのため子どもたちは海と様々な場面で親しんでおり、休み時間になると浜辺に降りてカニやゴカイをとって遊びました。ときには、運動会を浜辺でおこなうこともありました。

戦後間もない頃、学校の記念写真は、座礁した米軍の輸送船を背景に撮られることもありました。毎日の掃除は、海水を使ったり、直接海に行き行ってマットを洗ったりしました。水泳の授業は、プールができるまで、浜辺で行われていました。



座礁船を背景にした小学校の記念写真

1949(昭和24)～1951(昭和26)年頃の記念写真。場所は新島区の海岸。後ろに写っている船は、台風で座礁した米軍の輸送船「229」です。



海で机を洗う中学生

1962(昭和37)年撮影。場所は与那原中学校そばの海岸。学年末になると、生徒たちは各自の机を海まで運び、1年間の汚れを落としました。



中学校の校舎と海

与那原中学校所蔵

1968(昭和43)年頃の中学校運動場から撮影された写真です。校舎や運動場と海をへだてるものはありませんでした。掃除時には、海でカマジー(麻袋でできた玄関マット)を洗ったり、海水を汲んで教室の雑巾がけをしました。



新任委員 上原 忠

平成29年度
与那原町史専門部会

与那原町史だより 第9号 平成30年2月28日発行

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編集係
〒901-1303 沖縄県島尻郡与那原町字与那原712番地
与那原町コミュニティーセンター2階
TEL: 098-871-9981 FAX: 098-871-9982